

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—27468

⑤Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

④公開 昭和56年(1981)3月17日

G 06 F 15/21

7165—5B

G 07 G 1/00

6784—3E

発明の数 1

審査請求 有

(全 4 頁)

⑤POSターミナル

会社日立製作所旭工場内

①特 願 昭54—101276

①出 願 人 株式会社日立製作所

②出 願 昭54(1979)8月10日

東京都千代田区丸の内1丁目5

⑦発 明 者 高野和潔

番1号

⑦代 理 人 弁理士 薄田利幸

尾張旭市晴丘町池上1番地株式

明 細 書

1 発明の名称 POSターミナル

の範囲第1項記載のPOSターミナル。

2 特許請求の範囲

5 発明の詳細な説明

1 商品コードを含む販売商品情報を入力するキーを有するキーボードと、特定商品コードを記憶するメモリと、前記メモリに任意の商品コードをプリセットする手段と、入力された前記販売商品情報が前記メモリに記憶された商品に関するものかどうかを検出する検出手段と、前記検出手段の結果に従って選択的に商品の正価に対して予め定められた率をかけて客への請求額を計算する演算部とを有するPOSターミナル。

本発明は金銭登録機、POSターミナルに関し、特に商品価格に関する情報の制御に関する。商品販売において、商品によつて、または客によつて割引販売が行なわれる。

2 前記キーボードは割引販売を指定する割引キーを有し、前記メモリは割引対象外商品を記憶しており、前記演算部は前記割引キーの信号に従つて、前記検出手段により前記割引対象外商品に該当しないことが検出されたとき正価に予め定められた率をかけて割引された額を計算することを特徴とする特許請求

割引販売とは値札に出している正価に対して値段を割引いて販売すること、例えば株主割引販売、友の会等の特定会員を対象にした割引販売、あるいは職員に対する割引販売等がある。これ等はある率の割引率を乗じて正価より安く販売するものであるが商品の中には酒類や生鮮食品、その他割引の対象としない商品がある。

このように割引販売の対象としない商品があり従来は販売商品がこれに該当しているかどうかは売り手または金銭登録機のオペレータの記憶等による判断にまかされていた。このためミスが生じた。

本発明は上記ミスを防止すべく、装置にその判断の機能を与えることを目的とするもので、

プリセットモードにより割引対象外品目をターミナルにプリセットしておき、割引販売の時は、全ての商品の商品コードでこのプリセットされている商品とチェックし、該当しないものだけ割引計算を実行し、該当するものは割引かない。第1図は本発明のブロック図を示し、第2図はキーボードを示す。モード切替スイッチ28をプリセットにし、キーボード26の数値キー2より割引対象外の商品コードを入力する。これは入力レジスタに一品毎のコードにまとめた後、モード切替スイッチ28によりデータ切替回路29が割引対象外品目メモリ21の方に切替えられるようしてあるため、当該コードは逐次メモリ31の割引対象外メモリエリア21の方に記憶される。この操作により複数個(本発明では15品目とする)記憶させた後、モード切替スイッチ28を登録に切替えて通常の登録操作を行なう。この操作は通常、単価や商品の大分類、小分類を含む商品情報が数値キー2で入力される。キーボード26は現金売りキー8、掛売りキー9、割引売

3

当該ターミナルメモリ25内の請求額を客に表示し請求するようにしたものである。

割引対象外商品及び割引率のプリセットは次のように行なわれる。はじめにモード切替スイッチ28をプリセット位置にし、キーボード26の数値キー2により割引率を3桁の数値でキー入力する。ここでは割引対象外商品のコードを入力した後(15品目の後)割引率を入力する。プリセットはメモリ内の書き込み位置を1コード分ずつずらしながら行なわれる。割引対象外商品が15品目に満たないときは割引対象外商品の残りのエリアをスキップして割引率のエリアに書き込む必要がある。スキップする場合は図キー7をスキップの数だけ押下し、その後で割引率を3桁の多数値例えば「125」で入力する。その後モード切替スイッチ28を登録位置にする。

メモリ31は前述のように割引対象外品目エリア21と割引率エリア27に分かれている。プリセット時はデータ切替回路29によりキーボード

5

りキー10のファンクションキーが設けられている。いま割引販売を行なうことをファンクションキーにより指示された場合は数値キー2で入力される商品情報の一部である商品コードを比較部23により、先にプリセットした割引対象外品目メモリエリア21の内容とコードで先頭から順次比較し、該当するものであるか、チェックする。該当する商品でない場合は割引計算部24であらかじめプリセットされている割引率を割引メモリエリア27より呼び出して割引額を計算し、定価より差引いた請求額をターミナルメモリ25に演算部30により加算し逐次累積する。また入力された商品情報に含まれる商品コードが比較部23による比較チェックの結果該当商品コードが割引対象外品目メモリエリア21内にある場合は次の割引計算部24で割引計算は行なわないで定価が前記ターミナルメモリ25内の請求額に加算される。このように入力される商品情報を逐次自動的に比較チェックし、1人当りの販売の最後で販売合計キー4を押下したとき、

4

26からの入力データはメモリ31に与えられている。アドレス制御回路52はメモリ31のアドレスレジスタ53を制御するものであり、プリセットモードのときはキーボード26の単位キーを押す毎に(商品キーを押す毎にとしてもよい)アドレスレジスタ53のアドレスを1ずつ更新する。入力すべき品目数が割引対象外品目エリア21に格納できる数(この例では15)よりも少ないときは商品コードを入れて単価キーを押すという操作の代りに単価キーのみを押してアドレスを更新して割引率エリアまでアドレスを進める。

プリセットモードから通常の販売情報を入力するモードに切り替えられると、アドレス制御回路52はアドレスを順に更新してメモリ31の内容を読み出す。

第3図は他の実施例を示す。

この場合も割引対象外品目メモリ21にプリセットされている商品コードと比較部23で比較チェックする方法は同じであるが、その結果該当し

6

ない商品の販売金額を累積加算する割引対象商品金額メモリ51と全ての商品の販売金額を累積加算する全販売金額メモリ52を持ち、販売の最後で割引のファンクション指示があつた場合、はじめて割引対象外品目に該当しない割引対象商品金額メモリ51の内容にキーボード26の数値キーで入力される割引率を割引計算部54で乗じて割引額の計算を行ない、全販売金額メモリ52の内容との差を請求額メモリ55に記憶し、合計キーが押下されたときこれを客に表示請求するようにしたものである。尚この時の内容をレシート等に全販売額と割引額、請求額を印字をするがここではその記述を省略する。プリセットの方法は手動によるキーボード26より行う方法を説明したが、POSターミナルとして上位コンピュータに接続されて運用するものにあつては、少なくともその受信部57を備えておりこれにより受信メモリ56に受信したメッセージの内容により、モード切替のプリセット信号に相当する信号を作りデータ切替回路26

を切替えて、上位コンピュータより受信する割引対象外商品コードを割引対象外品目メモリ21にプリセットする方法によることも出来る。またこの考え方を課税商品に対応させて考えれば、割引対象外品目メモリ21を課税商品メモリに、割引率を課税率に、割引対象商品金額メモリ51を課税商品金額メモリに割引計算部を課税計算部に読みかえれば割増計算による課税商品に対する計算が自動的にできる。このように割引対象外品目メモリに割引対象外商品コードをあらかじめプリセット機能により記憶させておき、登録モードで登録される商品情報の商品コードを自動的に当該プリセットされている割引対象外品目と比較させ割引商品かどうかを装置で判定を行うようにしたことにより、オペレータの負担を軽くするとともにミスをなくすることができる。

4 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一例のブロック図、第2図はキーボードを示す図、第3図は本発明の他の例を示すブロック図である。

- 21 割引対象外品目エリア
- 22 入力レジスタ
- 23 比較部
- 24 割引計算部
- 25 ターミナルメモリ
- 26 キーボード
- 27 割引率エリア
- 28 モード切替スイッチ
- 29 データ切替回路
- 30 演算部

図1

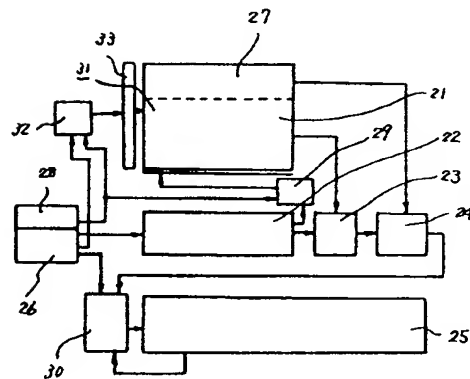


図2

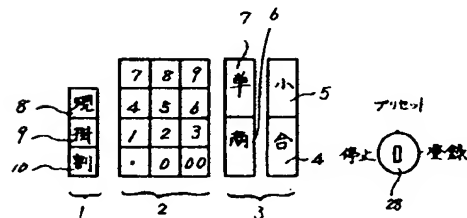


図 3

